

特集

トップ
インタビュー

21の未来を創る 子や孫が誇れるまちづくり

今回は知名町の今井力夫町長に、健康に暮らせるまちづくりへのビジョンやご自身の健康法等についてお話を伺った。

子や孫が誇れる町づくり

— 知名町における健康に暮らせるまちづくりへのビジョンについてお聞かせください

本町の第6次総合振興計画は、「協考（みんなで考え）」「協働（みんなで取り組み）」「共創（みんなで創る）」という考えのもと、町民参加を基本として作成いたしました。字を基盤とした多様性と強固なコミュニティを基軸としたまちづくりのため、「3つの基本理念（ミッション）」「21の行動方針（アクションプラン）」があります。そのひとつが「持続していくためのコミュニティの創出・育成」であります。地域社会が持続していくために必要な子育て支援・医療・介護・保健・福祉の充実を図るための基本

理念です。

本町の人口は昭和30年代には1万5千人程でしたが、高度経済成長時代に多くの若者が本土に移り、昭和40年初期には1万人を切り、その後も減少し、現在は約5600人となっています。

しかしながら、合計特殊出生率は2・26あり、若者の多くは3人以上の子どもを産み育てたいと考えております。多子世帯を希望する根底には、離島の厳しい環境でも、住む人たちの子育ての価値観やご近所同士の人付き合いの仕方に、これまでの長い歴史において助け合う、「結い」の精神があるのでしょう。町として、若者が子どもを産み育てやすい環境づくり、全ての町民が健康寿命を延伸できる環境、安心して暮らすことのできる保健医療環境づくりを軸とした健康な町づくりを行っております。

町民の健康増進に向けて、集落での健康相談会や運動教室の開催、若年から働き盛り世代の生活習慣病の

TOP
Interview

知名町長 今井 力夫



運動教室の様子



予防のための健診や健康教育の実施、高齢化社会を見据えた対策として、介護予防教室の拡充や認知症サポーターの育成に努め、住み慣れた地域とともに支えあい安心して暮らすことのできる「共生」と要介護状態の発生や、認知症の進行を遅らせる「予防」を両輪とした取り組みを進めております。

幼児からお年寄りまでそれぞれの運動能力・体力に合わせて運動のできるスポーツ施設（E・L・O・V・E）の活用を推進しております。この施設は、

幅広い世代が、それぞれの体力・目標に合わせて運動できる器具を整備しています。午前中は主に高齢者の皆様グループで利用し、午後は子どもたち、夜間は働き世代とそれぞれの世代が、この施設を身近なものとして活用しています。

また、運動公園として、平成30年にフローラルパーク内の多目的グラウンドの再整備を行いました。これまで芝のコートが1カ所しかなく高齢者の皆さんのグラウンドゴルフや、子ども達がサッカー等をするのに手狭でしたが、隣接する荒地地を整地し、利用する皆さんで芝を張り、新たな芝のコートを新設しました。このことにより、多くの町民が運動公園を活用し、グラウンドゴルフをはじめとした、様々なスポーツを行い、健康増進をはかっています。

また、人々が生涯にわたり健康で生きがいをもって暮らすためには、様々な学習ニーズに添えていく必要があると考えております。特に、学校卒業後や定年後など、多様な学び直しの要求、新しい知識や技術の習得の機会、心の豊かさや生きがいのための学習需要は増大しています。生涯学習の充実には住民の健康や福祉の振興、さらには地域の活性化につながる

ものでもあります。多様な世代の人々がつながり、共に学びあい、理解しあい、受け入れあう、共生社会の実現のための施策です。多種多様な人と人、学びと学びを結びつける事業を、公民館講座として開設することにより、町民の心の豊かさを育んでいます。生きがいこそ、健康の一助だと考えております。

―力を入れておられる取り組みや、特色のある取り組みについてお聞かせください―

本島は、地球温暖化の影響で、この50年で平均気温は約0・7度上昇しています。台風の大化や接近数の増加が島の生活に大きく影響しています。そのため町では、

2020年に「知名町気候非常事態宣言」を行い、脱炭素化へ向け大きく舵を切りました。このことをきっかけとして環境省の主催する脱炭素先行地域に応募し、第1回の先行地域に選定（鹿児島県で初）されました。

脱炭素先行地域への取り組みは、島の大きな3つの課題と連動しています。



風力発電・EV車・EVバイク

- 1つ目は、エネルギー、食料などの島外への資源依存
 - 2つ目が、台風による物流の途絶やインフラ破壊の頻発化
 - 3つ目が、ゴミの再資源化
- これらの課題への取り組みとして、現在、4つの柱を進めております。
- ①地域マイクログリッド網の構築（島内で小型電力網による再生可能エネルギー供給体制の構築）
 - ②公共施設の省・創・蓄エネルギー（島内の公共施設へ再エネ・省エネ・蓄電設備を導入）
 - ③EV【電気自動車】の推進（再エネ電力をEV車やEVバイクへ活用）
 - ④ゴミの資源化（ゴミを資源として有効活用）

この取り組みから、外海離島として島内で完結できるエネルギー・資源の循環を生み出し、島を持続可能な状態にいくこと、そして素晴らしい自然環境を次の世代に引き継ぐ責任を果たすための手段として脱炭素に取り組んでいくというのが知名町の目指している姿です。

中学から続けている剣道で心身のリフレッシュ

―町長ご自身の健康について、普段から心がけていらっしゃるごことがあります。したらお聞かせください

最近では目覚める時間が早くなり、愛犬と朝の散歩を30分ほどできるようになりました。また、夜の会合がない日はスポーツ施設E・L・O・V・Eでのトレーニング機器を活用した運動や近所の学校グラウンドでのランニングを心がけていますが、なかなか時間がとれないのも現状です。



健康のために続ける剣道

そのような中で、剣道を中学から続けておりますが、剣道愛好家の皆さんと剣道クラブを立ち上げ、週一回稽古会をしています。夏の暑いときも、冬の寒いときも道着袴に袖を通し、防具を着装した時に何かしら背筋と心がしゃきとした気持ちになります。裸足で床に立ち、大きなかけ声をかけ約1時間稽古し、防具を外したときの充実感はまだありません。62歳まで現役で試合に出ていましたが、体力の衰えもあり、今は健康維持のために毎朝の素振りと週一回の稽古が心身のリフレッシュになっています。

―最後に何か知名町のPRがございましたらお聞かせください

沖永良部島は「花と鍾乳洞の島」と言われています。沖永良部におけるテッポウユリの栽培は明治37年から行われ、約120年の歴史を有しています。最近では品種改良が進みジャパソフフラワーセレクションでベスト・フラワー（最優秀賞）に輝いた八重咲きのテッポウユリ「咲八姫（さくやひめ）」が有名であります。島で栽培されている切り花は他にも、グラジオラス、ソリダゴ、スプレー菊等があり一年を通して花を愛でることができます。

また、島には、大小200〜300



テッポウユリ:咲八姫(さくやひめ)

ほどの洞窟や鍾乳洞があると言われ、愛好家の中では「洞窟の聖地」と言われています。取りわけ鍾乳石の白さと輝きぐあいから東洋一と言われる昇竜洞だけが一般公開されていますが、最近では自然の洞窟・鍾乳洞を検査するアクティビティとしてケイビングが人気を博しています。沖永良部の洞窟は水量が豊富で「シャワー・ケイビング」ができるので冒険度MAX！また最高峰の洞窟である銀水洞ではリムストーンプールが広がる絶景が見られるなど大人気です。

冬場は、島の近海をザト



銀水洞

ウクジラの群れが南下するので、海岸やホテルの中からも鯨を見ることができ。間近で見ようと思えばホエールウォッチングなどのアクティビティも楽しめます。

奄美群島日本復帰70周年という奄美にとつては節目の年にあたります。是非、この機会に沖永良部島にご来島いただき、この素晴らしい自然と素朴な町民との触れ合いを楽しんでいただきたいと思っております。